

指導者（保護者）として大切にしたいこと（その45）

～「コート外での『気付く力』がプレイに表れる」～

2023年4月吉日
U12部会広島地区
SV 大庭 浩資

広島県バスケットボール協会U12部会広島地区の保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

また先日の年度始め総会では、お忙しい中多数お集まりいただき、本当にありがとうございました。

これから各チーム、新しい部員での活動が始まりますが、役員や保護者の皆様、また指導者の皆様におかれましては「選手ファースト」を念頭に、1年間、どうぞよろしくお願いたします。

さて、今回の資料は、最近読んだコラムや新聞記事から、今後の指導の参考になりそうなものを二つほど抜き出してみました。

尚、資料の中の「おやじは黙って働け。母親は黙って食事を作れ」の部分につきましては、記事の内容をそのまま抜き出したもので、まったく他意はございませんので、どうぞご理解ください（・・・笑い）。

まずは、2017年創部後、数年にして全中、Jr. ウィンターカップで2度の優勝を成し遂げている四日市メリノール学院中女子部の指導者、稲垣愛コーチへのインタビュー記事の一部です。

明るく、愛にあふれた指導で選手たちにも慕われる稲垣コーチですが、指導では基本を大切に、また日頃の生活態度も気にかけておられることがよく分かるものです。

<途中略>

——その年は平野実月選手（トヨタ自動車）や栗津雪乃選手（東京羽田）を擁した年でした。前年は全中不出場でしたが、準優勝まで飛躍できた要因は何でしょうか？

入学した頃とは別人のように、選手たちがよく成長してくれました。

それに前年に全中を逃したとき、2点差で浜松開誠館中に負けたのですが、選手たちに「何が足りなかったのか自分たちで考えなさい」と言ったんです。そうしたら、新チームでキャプテンになる平野が持ってきた答えが「“気付き”が足りませんでした」ということでした。「気付きが足りないからルーズボールやリバウンドが取れないし、仲間の不調にも気付けない。だから学校で何か困ったことがないか探します」と言ってきて、その一つとして朝に草抜きをすることになりました。それ以降、草抜きの習慣はメリノールでも続いています。

コート外の私生活から「気付き」を磨こうと、選手たち自身が答えとして出してきたことは大きかったです。

——稲垣コーチは、選手に考えさせることを大事にされているということですね。

そうですね。結局、私がプレイするわけではなくて、コートでやるのは選手たち。試合の中で修正しなければいけない場面がたくさんあるのがバスケットです。だから選手たちが自分の頭で考えることを大事にしています。

——稲垣コーチが、指導者として一番気を付けていることは何ですか？

指導者としては、子どもたちに3年間やり切ったな、楽しかったなと思わせるような指導をしたい。選手が楽しくないと思うのは指導者の責任だと感じています。

あと技術的なことと言えば、徹底してファンダメンタルを身に付けさせること。後々、高校や大学でもバスケットを続けてくれたらうれしいし、その中でファンダメンタルは裏切りません。この先、どこに行っても通用するように、一人一人に基礎からしっかり指導していきたいです。

また先ほども出ましたが“気付く力”です。誰かが困っているときに、それに気付けるかどうか。パッと動けるかどうかはバスケットボールにも表れます。

3年ほど前、学校に一本の電話がかかってきました。聞けば電車の中で缶チューハイが倒れていて、それを見た中学生がさっと自分のかばんからタオルを取り出して、床を拭いて缶を拾ったと。それを見た大人が感動して、学校に連絡をくれたんですね。その生徒は今の高校1年生で、当時は中1でした。

そういうことが自然とできる子は、将来社会に出た時にも絶対にかわいがってもらえますよね。それが一番大事ですし、気付く力こそがルーズボールやリバウンドの差に表れるのだと思います。

次は、侍ジャパンが14年ぶりに感動的な優勝を果たしたWBCに、中継ぎ投手として出場した、巨人の大勢投手のお母さんの話です。

大勢投手は、幼少期に川崎病を患いながら、家族の支えで成長を続けたそうですが、その成長の一番の原動力は、お母さんの特大スケールの子育て方法にあったようです。

私は、子どもが転んでもすぐに「痛かったな」とは言わない。言うともどもは「あ、今痛かったんだ」と思ってしまいます。だからまずは「大丈夫、大丈夫。早く起きよ。大層、大層言わない」とあしらう。心配はその後でいい。

失敗する前に『失敗するかも』って思ってたらしんどい。私の性格的にも思わないですね。いちいちそこで流れを止めない。突き進むだけです。

私の子育てのヒントは、姉のあかりの恩師である西脇工陸上部の足立幸永監督の教えにあります。

足立監督の教えは「おやじは黙って働け。母親は黙って食事を作れ。一切、手を出すな」といってシンプルなものですよ。

なぜ介入しすぎはいけないのか。足立監督は「子どもが困った時に、普段から何でもかんでも手を差し伸べてたら、それが癖になる。あなた、子どもがスタートラインに立っておじけづいた時に代わりに走れますか？」と言われました。

子どもを心の底から信じて、自立と成長を促すこと。『せやなあ』って、納得しました。それこそ野球だったら、満塁の時に私が代わって投げるわけにはいかないですから。

稲垣コーチの「結局、私がプレイするわけではなくて、コートでやるのは選手たち」という言葉と、足立監督の「あなた、子どもがスタートラインに立っておじけづいた時に代わりに走れますか？」という言葉には大きな共通点があるように感じます。

指導者として大切なことは、コートの上で選手が自分たちで考え自信をもってプレイできるように準備してやること、また選手をコートに送ったからにはその選手を信じることにあるのかもしれない。

私自身、反省、反省、また反省です。